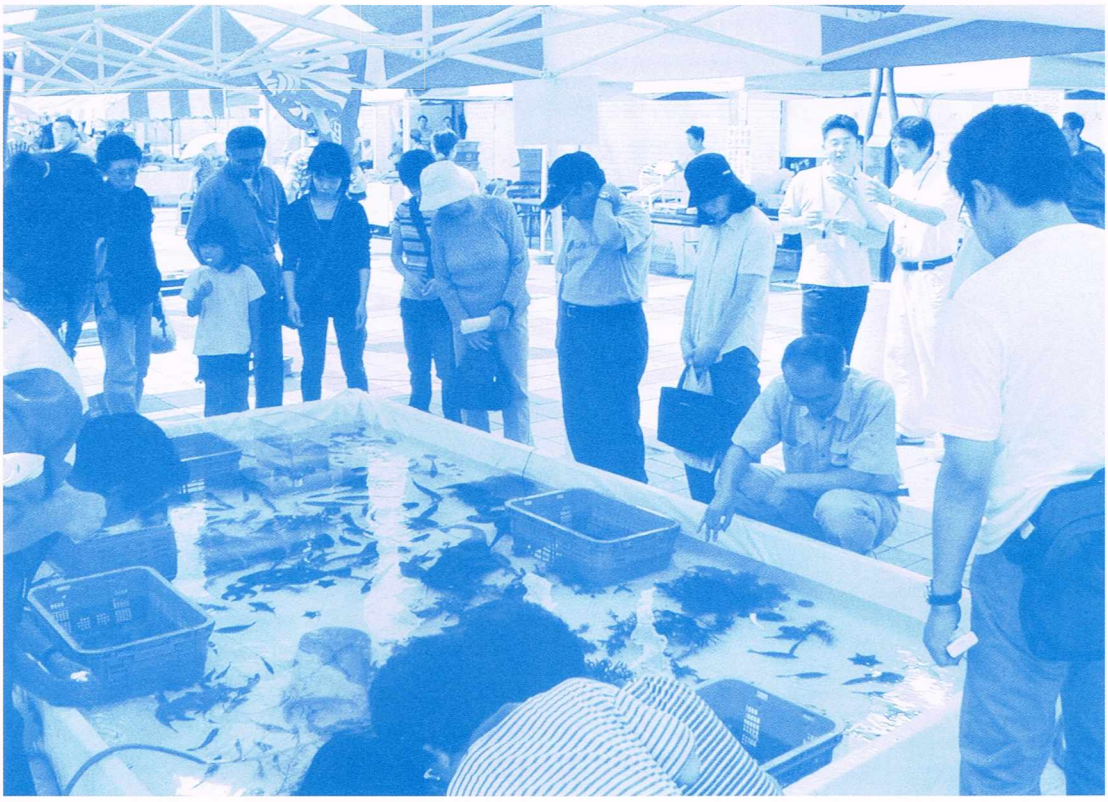
群くき来

第 58 号

平成15年10月１日発行

さわってみよう

（９月６～７日 農林水産フォーラム）



水産振興センターに赴任して

水産振興センター　所長　加　藤　淳　一

執務室の窓の外には、初夏の穏やかな海がキラキラと日の光を受け、広がっています。この度の定期人事異動に伴い、４月１日付けで水産振興センター所長に着任しました。この海を眺めるのは３度目、６年振りとなります。松くい虫の被害を受けた裏山の松林を除くと、以前と変わらない景色です。

一方、水産業の中身は変化しており、水産資源の減少や魚価の伸び悩み、漁業従事者の減少・高齢化の進行により、漁家経営は非常に苦しい状況にあります。

このような状況を打破し、漁家経営を安定化するためには、経営を維持する両輪とも言える持続的な生産が行える資源管理と適正価格での販売が不可欠です。このうち、水産振興センターが手助けできるのは資源管理についてであろうと思います。

平成15年３月に策定した『「秋田21総合計画」第２期実施計画』には、「水産振興センター試験研究基本計画」が盛り込まれています。その内容は、海洋・湖沼・河川の生産環境維持のための基礎資料の把握や「資源を守り生かす漁業の実現」を目標とした水産資源の安定的・持続的な供給を将来まで保証可能な技術の開発と具現化する生産体系の構築により、漁家の経営安定や漁村の活性化などへの寄与を目指し、持続的に試験研究することとしています。

ところで、「持続する人間関係は必ず相互関係であり、一方的関係では持続は望めない」と言われております。そのためにも、県民の皆様の御意見や御要望をお待ちするとともに、当センターの業務に関しましても御理解のうえ、一層の御支援と御協力をお願いします。

各部の業務とスタッフの紹介

所長 ─ 次長（事務）／次長（技術）
- 企画管理部 ── 総務班、企画班、普及班
- 海洋資源部 ── 千秋丸、第二千秋丸
- 資源増殖部 ── アワビ種苗施設（象潟町）
- 内水面利用部 ── 内水面試験池（阿仁町）

最新情報の提供と漁業技術の改良・普及

企画管理部

事務次長　兼
部長　石井　文雄

企画管理部は総務班、企画班、普及班の３班から成り、センターの運営管理のほか、試験研究の企画や情報収集・提供及び漁協や県内外との連絡調整を行っています。また、各種研修会や交流会を開催して漁家経営に役立つ情報を提供するとともに、水産業改良普及活動を通じて、漁業者からの要望などの情報の収集を行い、試験研究に反映させるよう努力しています。

（総務班）

吉田　浩之（主　査）
班総括、予算、監査、人事事務などを担当。

柏谷　　耕（主　事）
歳出、予算、物品管理などを担当。

児玉　幸子（主　事）
旅費、福利厚生、文書整理などを担当。

齊藤　英則（主　事）
情報システム、行政ネットワークなどを担当。

武藤　　靖（主　事）
歳入、契約、公有財産管理などを担当。

宮崎　保光（技能主任）
公用車の運転・管理を担当。

（企画班）

渋谷　和治（上席研究員）
班総括、試験研究の企画、調整、予算のほか、ホームページなどを担当。

藤田　　学（研究員）
事業報告や「群来」の発行、報告会の企画開催などを担当。

伊藤　泰博（主　任）
資料の編纂業務を担当。

（普及班）

船木　栄一（主　幹）
班総括、男鹿南部・天王地区の普及業務、担い手確保の推進、椿地区のヒラメ養殖指導などを担当。

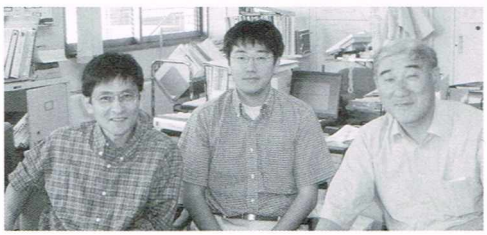
船木　　勉（主　幹）
県北部地区の普及業務と水産物の加工事業、担い手活動の推進、各種研修・講習など担当。

岩谷　良栄（主　幹）
男鹿北部の普及業務と中核的漁業者協業体の推進、戸賀・畠地区のヒラメ養殖指導などを担当。

白幡　義広（副主幹）
県南部地区の普及業務と新規就業者確保育成、漁業士活動促進、金浦地区のヒラメ養殖指導など担当。

総　務　班

普　及　班



企　画　班

ハタハタ研修

資源管理型漁業の推進に係る調査と漁海況情報の提供

海洋資源部

部長　佐藤　　泉

海洋資源部は、大きく分けると、資源管理型漁業の推進に資する調査研究と、漁況や海洋環境に関する調査研究の２分野を担当しています。資源管理型漁業に関する調査研究では、県の魚ハタハタの資源状況の評価を始め、底魚類の資源調査を主に行っています。漁況・海洋環境に関する調査研究では、日本海側各水試と共同で対馬暖流の挙動を追跡するとともに、浮魚類の漁況の把握を主に行っています。このほか、沿岸域の生物環境、人工魚礁、貝毒原因プランクトンの発生発生状況などを調査しています。

佐藤　時好（主任専門研究員）
ズワイガニなどの底魚資源に関する調査や人工魚礁関連調査などを担当。

笹尾　　敬（主任専門研究員）
海洋構造変動パターンの解析や計量魚探による資源推定調査、漁海況予報に関する調査を担当。

奥山　　忍（研究員）
資源管理型漁業の推進に関する調査や遊漁に関する実態調査、海域環境の調査などを担当。

杉下　重雄（研究員）
ハタハタやマダラの稚魚の分布移動などに関する調査や資源管理のための漁具改良の調査を担当。

（千秋丸）
佐藤　　繁（船　長）
佐藤　清美（機関長）
伊藤　　保（通信長）
鈴木　則雄（主任・操舵手）
石黒　常雄（主任・甲板長）
西野　悦夫（主任・通信士）
小沼　徳光（主任・航海士）
佐藤　正則（技師・機関士）
鎌田　勝仁（技師・航海士）
東海林善幸（技師・甲板員）
田口　重直（技師・甲板員）
吉田　正勝（技師・航海士）
吉澤　　健（技師・機関士）
船木　勝美（技師・航海士）

（第二千秋丸）
熊谷　泰治（船　長）
加藤　良衡（主任・機関士）
船木　正人（技師・航海士）
寺地　　努（技師・航海士）

ズワイガニ測定

千秋丸による底びき調査

千　秋　丸

第二千秋丸

ハタハタ稚魚調査時に採捕された魚貝類の検索

第二千秋丸での採水

第二千秋丸での採泥

種苗の安定供給と増養殖技術の開発

資源増殖部

部長　工藤　裕紀

資源増殖部では、「つくり育てる漁業」を推進するため、マダイ、ヒラメ、アユ、ハタハタ種苗の大量生産と放流を継続するとともに、トラフグ・ガザミ・イワガキのほかホンダワラ・エゴノリなどの海藻類についても増養殖技術の確立に努めています。また、藻場の造成とアワビやウニ資源を健全に維持する技術の開発を進めており、栽培漁業を軸とした沿岸漁業者の安定経営を目指しています。

古仲　博（主任研究員）
マダイ、ハタハタの種苗量産技術開発、クルマエビの放流効果調査などを担当。

中林　信康（研究員）
藻場の造成と、そこに棲むアワビやウニ資源を増やし、健全に維持する研究やアワビの放流効果調査を担当。

秋山　将（研究員）
ワムシなど初期餌料の大量生産、トラフグの種苗生産技術開発や標識放流による種苗の移動・回遊経路の解明、アユの種苗量産試験とクルマエビやヒラメ貧血症などの魚病検査を担当。

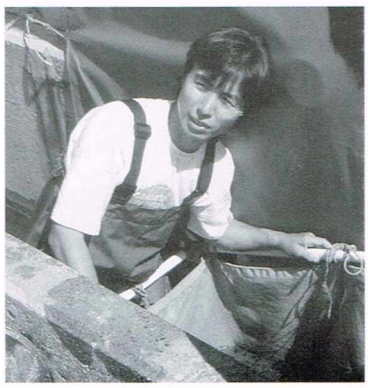
山田　潤一（主任研究員）
ヒラメの種苗生産と放流及び浮沈式生簀を利用した養殖試験並びにイワガキの増殖に関する研究などを担当。

三浦　信昭（研究員）
クロソイ・ガザミの種苗量産技術開発、ホンダワラ・アカモク・エゴノリなどの食用海藻の生産の安定と増大を図るための増養殖技術開発試験を担当。

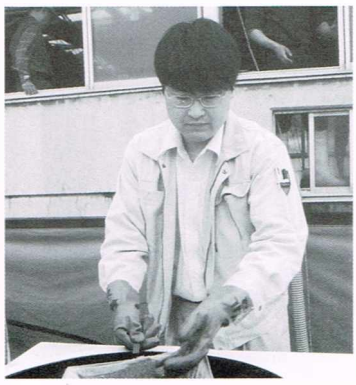
古仲主任研究員

山田主任研究員

中林研究員

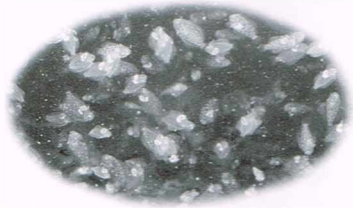


三浦研究員



秋山研究員

クロソイ稚魚



ヒラメ稚魚

川や湖の魚たちは今

内水面利用部

部長　杉山　秀樹

川や湖の魚たちが再び注目されています。食料を国民に供給する内水面漁業としての位置づけは基本ですが、内水面が持つ多面的な役割や機能にも目が向けられるようになってきました。内水面利用部では、地場の食文化や観光と結びついた魚の増殖、地域特産種の開発、魚にやさしい川づくり、外来魚駆除などの試験研究について幅広い視点から取り組み、その結果を速やかに関係者にお伝えしたいと思っています。

伊勢谷修弘（主任研究員）
魚病の診断、治療、予防など魚類防疫対策に関することのほか、養殖指導などを担当。

水谷　寿（主任研究員）
十和田湖のヒメマス資源対策調査、アユの資源調査、モクズガニの種苗生産試験などを担当。

（内水面試験池）

鷲尾　達（上席研究員）
サクラマス種苗生産や天然遡上アユの親魚養成、イワナ増養殖などの技術開発を担当。

渡辺　寿（主任研究員）
内水面（八郎湖）や海面環境に関する水質分析を担当。

高田　芳博（研究員）
サケの資源管理や八郎湖の魚介類に関する調査を担当。

佐藤　正人（研究員）
サクラマスの放流効果やカジカの増養殖技術の開発、渓畔林に関する調査を担当。

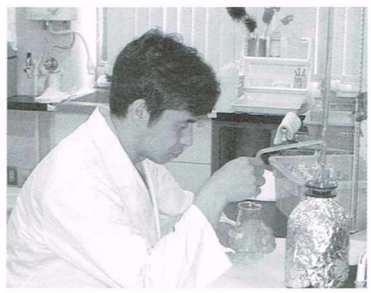
ヤマメ

カジカ

イワナ

鷲尾上席研究員

伊勢谷主任研究員



渡辺主任研究員

水谷主任研究員

高田研究員

佐藤（正）研究員

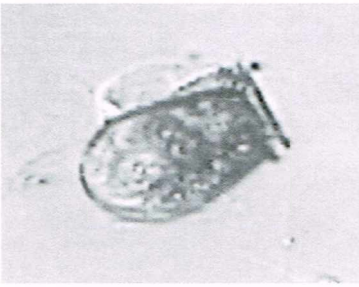
浜の話題　イガイの出荷規制とクラゲの発生状況

海洋資源部では、沿岸漁場の保全と漁業被害の未然防止を図るため、有害プランクトン（ディノフィシス・フォルティ）による貝毒発生機構の解明や、漁業公害及び赤潮に関する調査・情報収集を行っております。また、この一環として、浜におけるクラゲの出現状況についての聞き取り調査も行っています。

ディノフィシス・フォルティは下痢性貝毒の原因毒を生産し、イガイ、アサリ、イワガキなどの二枚貝の毒化を引き起こします。近年は、毒化していれば出荷規制を実施していることから、中毒事例は報告されていませんが、時には出荷規制が長期化し、漁業者に経済的損失を与えることになります。

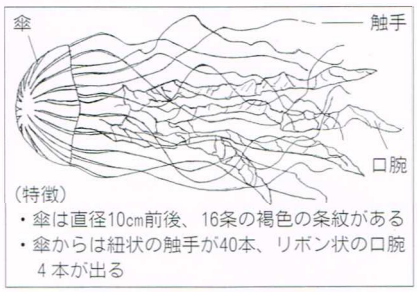
わずか150個体/㍑程度の出現でも貝の毒化は起こりうるので、緻密なプランクトン出現調査が必要になります。今年の出現状況を見ると、５月中旬から急増し150個体/㍑以上となり、約１ヵ月間出現量の多い状態が続いた後、６月下旬には100個体/㍑以下とかなり少ない数値を示しました。このため、５月中旬から出荷が規制され、例年解禁となる７月中～下旬でも漁ができず、８月下旬にようやく出荷規制が解除されました。

一方、クラゲが例年になく多い話も浜から聞こえてきます。台島大謀に乗網したクラゲは、ミズクラゲやアカクラゲで、５月中～下旬には軽トラで２～３台分も入網し、網が目詰まり状態になることがしばしばあり、操業に影響しました。しかし、現在は一部地域ではさし網に多くかかっていますが、大分少なくなっています。



貝毒原因プランクトン
（ディノフィシスの顕微鏡写真）

調　査　風　景
（出現状況の確認）



アカクラゲ
（素手でさわると危険！）

漁業士会だより　「救命胴衣の着用　安全操業は家族みんなの願いです。」

３月５日から25日にかけて３ブロック漁業士交流会が各地区で開催されました。交流会には多くの指導漁業士や青年漁業士の皆さんが参加し、全国の漁業士活動の状況や今後の活動の在り方などについて、活発な意見交換が行われました。

各ブロックでの主な意見は、漁業士だよりの発行やホームページの開設により、地域で漁業士活動が十分に理解されるよう情報発信を積極的に行うべきなどでした。今後、具体化に向け役員会などで検討したいと考えております。

なお、１月21日開催の漁業士会総会で次の新役員が決まりました。任期は２年です。

職　名	氏　　名	所　　属
会　長	杉本　　貢	北浦総括支所
副会長	須藤　征徳	県北部総括支所
	佐藤真智夫	県南部総括支所
理　事	船木　辰夫	船川総括支所
	柳田　　章	県南部総括支所
監　事	武田　　篤	県北部総括支所
	佐藤　　優	船川総括支所

杉本会長

須藤副会長

佐藤副会長

浜の話題　海洋技術高校生が大謀網漁業の体験乗船を実施

新規漁業者の就業への啓発を図る漁業就労者促進事業の一環として県立海洋技術高等学校の就業候補生を対象に、先達漁業者との交流会と大型定置網（大謀網）漁業の体験乗船を行いました。

1　日　時　第１回目　５月26日（月）午後１時から午後５時30分
　　第２回目　６月２日（月）午後１時から午後４時30分
2　参加者　県立海洋技術高等学校　海洋科生産コース２年生　18人
3　内　容

(1) 交流会

先達漁業者で県指導漁業士の鈴木均氏による大謀網漁業の漁具漁法、漁獲組成、漁場環境保全などの講話と生徒との意見交換を行いました。

交流会

(2) 大謀網体験乗船

第１回目は午後２時から椿漁港台島分港から㈲台島大謀所有の第１団平丸に乗船し、沖合にある大謀網漁業の水揚げ作業を体験（見学）しました。設置されている漁具の大きさや、ロープの操作で身網が次々に引き揚げられる様子、また、今年４月に同校を卒業し現在乗組員として活躍している先輩の逞しく一人前に変身した姿に、生徒から驚きの声があがってました。当日は、あいにくと前日まで大漁のマダイは100尾程度で、マアジの漁獲量が約２トンという状況でしたが、船上で飛び跳ねるマダイや色々な魚の姿に身を乗り出し、中には乗組員と一緒に収容籠の移動作業を手伝う生徒もいました。乗船した感想は「海が好きだから就職は絶対漁業に決めたい。」「今日の体験乗船などを参考に、出来れば漁業関係に就職したい。」「体験乗船はとても面白かった。また、大謀網に乗りたい。」などでした。

乗船風景

第２回目はしけ模様のため、残念ながら網揚げができず船上から大謀網の設置状況を見学して引き返してきました。

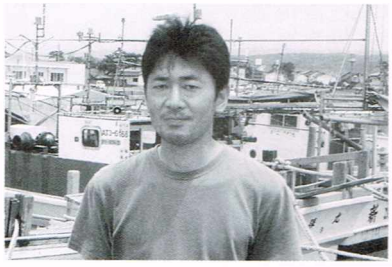
今回体験乗船した生徒の皆さんは、11月には船川丸で約２カ月間の長期航海実習をすることになっております。無事に航海を終え、秋田県の漁業現場に就職することを期待しております。

漁獲状況

新人漁師紹介

若い力が加わります。大きく育てて下さい

佐藤 文人（ふみと）さん（象潟町・37歳）
船名：市宝丸（刺し網、釣り）
出身：由利郡象潟町
趣味：海釣り（商売以外です。）
近況：船川水産高校を卒業後、17年間の地元での会社員生活を経て、今年４月から本格的に父親の後継者として就職しました。将来の夢は、早く一人前の漁師になって、父親の技術を超えることです。先輩の皆さんよろしくお願いします。



佐藤 大介（だいすけ）さん（男鹿市・18歳）
船名：団平丸（大型定置網）
出身：男鹿市船川港
趣味：映画鑑賞
近況：子供の頃から海が大好きで海洋技術高校に入学、２年生の時の体験乗船研修がきっかけで台島大謀に就職しました。仕事が楽しく希望に満ちた毎日ですが、１日も早く定置網漁業の全てを習得し、先輩を超えた漁師になるのが夢です。

浅野 重光（じゅうこう）さん（男鹿市・50歳）
船名：コウセイ丸（潜水）
出身：男鹿市戸賀
趣味：海釣り
近況：大学を卒業後、郵政省職員として仙台市で勤務していましたが退職し帰郷。漁師になるため２年前に小型船を購入し、主に潜水、釣り漁業に従事しています。技術不足で半人前ですので、御指導をお願いします。

転入者・新規採用者紹介

転入・新規採用（所長以外）　　1 職名　2 前職場　3 趣味　4 ひとこと

石井　文雄
1 次長
2 産業経済政策課
3 写真（道具集め？）
4 センター周辺のロケーションが最高。海・魚・漁業・職員、どれも皆神秘的、興味津々。

武藤　靖
1 主事
2 雄勝建設事務所
3 釣り（川限定）
4 山育ちで海とは無縁でしたが、海もいいかもしれない。特に海の日。

船木　栄一
1 主幹
2 水産漁港課
3 自然観察？
4 8年振りのセンター勤務となりました。漁業者の目線での普及活動が目標です。

東海林善幸
1 千秋丸技師
2 企業局電気課
3 ラーメン食べ歩き
4 半年が過ぎ、やっと船の仕組み、仕事の流れを理解しつつあります。御指導よろしく。

工藤　裕紀
1 資源増殖部長
2 水産漁港課
3 全国2位のブロック崩し
4 29年目にして初めての研究職。漁業者のために何ができるやら？

寺地　努
1 第二千秋丸技師
2 新規採用
3 サッカー、ドライブ
4 山口県の水産大学校から参りました。下関のフグが男鹿まで上ってくる？とは驚きです。

水谷　寿
1 主任研究員
2 水産漁港課
3 釣りとそれにまつわる色々
4 再び川や湖で仕事ができることをうれしく思います。またよろしくお願いします。

藤田　学
1 研究員
2 水産漁港課
3 釣り（この頃行ってない）
4 6年ぶりとなりました。施設の案内をやっています。種苗生産の流れが分からず勉強中です。

転出

赤間　健太郎	退職	加藤　政樹	退職
夏井　芳雄	総合食品研究所	安村　明	水産漁港課
米谷　峰夫	水産漁港課	池端　正好	水産漁港課
土田　織恵	水産漁港課	伊藤　茂	水産漁港課
菊地　幹	統計課		

編集後記　今年度から群来の編集担当となりました。第58号の発行が大変遅れましたが、今後水産に関して得られた情報を、この群来などを通してお知らせしたいと思いますので、よろしくお願いします。（藤）